

平成21年度事業計画

■ 研究事業

1. 研究会

和歌山市の中心市街地再生に関する研究

代 表	足立 基浩	
研究員	萬羽 昭夫	財団法人和歌山社会経済研究所研究部長
	藤代 正樹	財団法人和歌山社会経済研究所主任研究員
	鈴木 孝明	財団法人和歌山社会経済研究所主任研究員
	畑 光穂	和歌山商工会議所企画・街づくり支援室リーダー
	大泉 英次	和歌山大学経済学部教授
	足立 基浩	和歌山大学経済学部准教授
	辻本 勝久	和歌山大学経済学部准教授
	山田 良治	和歌山大学観光学部教授
	堀田 祐三子	和歌山大学観光学部准教授

【テーマの概要】

2007 年度に政府の認定を受けた和歌山市の中心市街地活性化基本計画では、「訪れたくなるまち」、「住みたくなるまち」、「歩いて楽しく過ごせるまち」などをモットーに合計 52 にわたる事業実施を計画（実施中）している。特に、JR 和歌山駅と南海和歌山市駅を結ぶラインをハッピーロードとして位置づけ、回遊性・滞留性の向上を目指している（和歌山大学、NPO 市民団体との協働でオープンカフェ事業を実施している）。さらに城フェスタ事業では和歌山城を中心とした町の魅力創出事業や回遊性向上策などが盛り込まれており、半年の期間中約 74 万人の集客に成功している。しかし、単年度事業であり今後この事業をどのように発展的に継続しているかが問われているといえよう。そこで、2008 年度の中心市街地再生検討会においては、中心市街地活性化における数々の策が検討され、中でも、和歌山城集辺の中心市街地を基本区域とする回遊性事業「和歌山センチメンタルジャーニー（街歩き事業、仮称）」を追加提案するにいたっている。しかし、その実現に向けては運営主体の選定や、効果確認などの作業が残っている。2009 年度においては、引き続き全国の事例などを参考に回遊性事業の検討・提案を行うとともに、2008 年度案の実施のフィージビリティ（実現可能性）について検討を行うものとする。

「和歌山市民・近隣地域住民の消費動向と和歌山市小売商業の課題」

に関する10年後の追跡調査

代 表	木下 雅夫	
研究員	木下 雅夫	財団法人和歌山社会経済研究所総括研究部長
	中山 健太	財団法人和歌山社会経済研究所研究部長
	小川 美弥子	財団法人和歌山社会経済研究所主任研究員
	中谷 正隆	和歌山商工会議所企業支援部企画・街づくり支援室主事
	大泉 英次	和歌山大学経済学部教授
	柳 到亨	和歌山大学経済学部講師

【テーマの概要】

平成11年度に、当機構において取り組んだテーマであり、「和歌山市民の消費動向」、「近隣市民の和歌山市での消費動向」など圏域内外の消費動向の追跡調査を行う。

前回調査結果と比較するとともに、現状と変化を取りまとめることにより、「消費者ニーズや商圈の把握・問題点の発掘・活性化への課題提起」を行い、「人口問題、産業集積、商業・商店街活性化」等行政の取り組みや、商工団体の戦略の指針に繋げていく。

2. 自主研究

和歌山市における市場（いちば）活性化についての研究

代 表	鈴木 裕範	
研究員	澤崎 喜英	財団法人和歌山社会経済研究所研究部長
	谷 奈々	財団法人和歌山社会経済研究所主任研究員
	石橋 宏之	財団法人和歌山社会経済研究所研究員
	畑 光穂	和歌山商工会議所企画・街づくり支援室リーダー
	大西 敏夫	和歌山大学経済学部教授
	鈴木 裕範	和歌山大学経済学部准教授
	高橋 淳子	和歌山大学大学院経済学研究科修士課程

【テーマの概要】

「市場」の存在と機能は、今日地域の食文化の面だけではなく地域コミュニティ、町中活性化、観光資源としてあらためて見直す必要がある。

全国をみると、「市場」で「にぎわい」や「活気」を創出している地域がみられる。京都・錦市場や大阪・黒門市場という日本有名市場だけではなく、金沢市の近江市場、青森県・新鮮市場、鹿児島市・城南市場、彦根市・本町市場等では、地域住民の食を支え地域に豊かな食文化を根付かせ地域に活力を生み出している。また、そうした街の市場は観光客が訪ねてくる観光名所にもなっている。

和歌山市はどうか。和歌山市には、七曲、黒門、美松、明光、美園などの市場が、古くから「市民の台所」として、「対面商売」を魅力に発展してきた歴史をもつが、現在はいずれも厳しい状況に直面している。また、インターネットの七曲市場を見ていたら、市場体験を楽しみに来たところ、その日が日曜日で空いていた店は2, 3軒だったという書き込みを見つけた。町なかの「市場」を「地域資源」「観光資源」としてもっと見直す必要があるのではないか。

本研究では、和歌山市内の「市場」の現状と諸問題について調査・分析し、「地域資源」としての可能性を検討、さらに「観光資源」としての活用の方策や具体化取り組みについてまとめ、モデル的な実験も含めて提言する。

観光客の受け入れに対する和歌山県民の意識調査

代 表	竹田 明弘	
研究員	則藤 正文	財団法人和歌山社会経済研究所研究部長
	中平 匡俊	財団法人和歌山社会経済研究所主任研究員
	畑 光穂	和歌山商工会議所企画・街づくり支援室リーダー
	竹林 明	和歌山大学観光学部教授
	廣岡 裕一	和歌山大学観光学部教授
	佐々木壮太郎	和歌山大学観光学部准教授
	竹田 明弘	和歌山大学観光学部准教授
	竹林 浩志	和歌山大学観光学部准教授

【テーマの概要】

これまで、観光領域における魅力の形成は企業を中心に行われてきた。そこでは顧客満足的手段として、ホテル・民宿など宿泊サービス、観光サービス、飲食などの観光関連産業では、実務家を中心にホスピタリティという言葉が頻繁に取り上げられてきた。ところが、近年、多くの地方都市が観光をテコとして都市の再生、再活性化に取り組んでおり、観光を焦点とした都市間競争が繰り広げられている。観光産業における競争の次元が、企業から地域や都市に移行している。かかる状況の下で、ホスピタリティ研究の焦点も、企業などでサービスを担当する従業員から、地域住民へと拡大させていく必要がある。この場合、そもそもホスピタリティという概念を利用することが妥当であるかという問題は残る。われわれはホスピタリティというより、むしろ、おもてなしという視点から研究を進めていく。

観光において、そもそも地域でおもてなしするとは何か、観光客満足を引き出すおもてなしと住民の関わりなどについて具体的に分析した研究は少ない。

本研究調査では、 1. 和歌山県民の訪問客受け入れに対する意識 2. 観光客満足と県民の態度や意識との関係について明らかにする 3. 観光客満足に影響を与える地域のおもてなしについての示唆を導き出すことを目的とする。

＜事務局担当＞

藤村 幸司 和歌山商工会議所
山本 敦子 和歌山大学経済学部

■ 刊行物

- 機関誌「地域経済」
- ホスピタリティ研究会報告書他

■ ホームページによる広報

URL : <http://www.eco.wakayama-u.ac.jp/wtkkk/>

理事会メンバー

(平成20年6月1日現在)

【地域経済研究機構理事会】

理事長	森口 佳樹	和歌山大学経済学部教授 学部長
副理事長	山田 良治	和歌山大学観光学部教授 大学評議員
理事	小倉 正義	和歌山商工会議所専務理事
理事	高嶋 洋子	和歌山社会経済研究所専務理事
理事	木下 雅夫	和歌山社会経済研究所総括研究部長
理事	大泉 英次	和歌山大学経済学部教授 副学部長
理事	鈴木 裕範	和歌山大学経済学部准教授